

『平成24年度 指導部の目標と重点指導項目』

JVA国内事業本部 審判規則委員会 指導部

1 目 標

- (1) 公正・公平な立場で、ルールを正確に適用し、ラリーの継続を大切にして、観衆・マスメディアを魅了するようなダイナミックなプレーを引き出す審判実践を行う。
- (2) 審判員は、役員、競技参加者に対する言動に十分注意し、相互の信頼関係を築く。
- (3) 審判技術の向上を目指すために日々の研鑽に努める。
- (4) 技術統計については、より正確な判定とデータ作成を行うことができるようなスタッフのスキルアップを図る。

2 重点指導項目

《6人制》

【主 審】

I、権限と責務

規則23. 2権限、および規則23. 3責務を十分理解し、試合全体をコントロールする。特に下記の項目については、毅然とした態度で臨む。

- (1) チームメンバーによる不法な行為（相手に向かって“ガッツポーズ”などで挑発・威嚇する行為など）に対して、規則21「不法な行為とその罰則」に則って罰則を適用する。また、審判団（セカンドレフリー・ラインジャッジ等）に、チームから判定に対するクレームがあった場合は、その内容を確認し、適切に対応する。
- (2) 判定に対する質問は、ゲームキャプテンのみであるので、監督や他のプレーヤーからの質問は受けつけない。

II、判定について

(1) ネット際の判定

① タッチネット

「選手が相手のプレーを妨害する行為」を理解して判定をする。

- ・ ボールをプレーする動作中、ネット上端の白帯とアンテナの先端80cmまでの部分に触れたとき。
- ・ ボールをプレーしているときにネットの支持を得たとき
- ・ アドバンテージを得ようとしたとき
- ・ 正当なプレーの試みに対して妨害するような動作をしたとき

※ 主審がタイムリーに判定できるように視点を動かさないようにする。また、副審は、視点をネット際に残して判定する。（早くボールを追い過ぎない）

※ ブロッカーがアンテナに触れたときの判定が、逆になってしまうことがある。ネットやアンテナにボールや選手が近づいてきたときは、起こりうる反則を整理し準備して判定する。

② ブロックの判定

ブロック時のキャッチボールで明らかなものは判定をする。

ボールをつかんで投げるような動作は、キャッチの反則である。

- ③ オーバーネットの判定
ネット上に視点を置き、ボールと手の接点を見て判定する。
- ・ブロッカーのオーバーネットは、セッターがトスを上げる前、上げた後、または同時にブロックしたとき
 - ・ブロッカーが相手のアタックヒットの前、またはそれと同時に、相手空間内にあるボールに触れたとき
 - ・相手から返球されてくるボールを、明らかにオーバーネットして、アタックヒットを完了したとき
 - ・自チームからのトスを明らかにオーバーネットして相手チームへ返球するとき
 - ・相手コートから返球される1本目、2本目のボールで、明らかにネットを越えてこないボールを、プレーヤーの有無にかかわらず、オーバーネットしてブロック行為（3本目はその限りではない）をしたとき

(2) バックプレーヤーの反則に関する判定

- ① サービスのホイッスル前に、ポジションの確認をして、反則が起きた瞬間にホイッスルをする。セッターとバックアタックするプレーヤーの位置を確認しておく。特にセッターがフォワードのときは、注意して確認する。
昨今、バックアタックの攻撃が多様化され速くなってきているので、判定の方法を研究する。
- ② セッターがバックの場合、フロントゾーンで、ネットより完全に高い位置でトスしたボールが、直接相手コートにかえるか、または相手方ブロックに当たったときは反則となる。

【副 審】

I、権限と責務

規則24. 2権限、および規則24. 3責務を十分理解し、主審を補佐し、自身の責務を遂行する。

- (1) ベンチにいるチームメンバーの不法な行為に対してコントロールし、主審に報告する。
- (2) 記録員の任務をコントロールする。
- (3) 特に、サービス順の間違い、不当な要求、遅延や不法な行為の記録が、完全に記入されないうちに主審がサービスのホイッスルをした場合には、副審はホイッスルをして再開を止める。
- (4) プロトコール中に、コートのメンバーをコンポジションシートで確認をする。

II、判定について

- (1) タッチネットの判定
 - ① 網目の部分と下部の白帯の部分は反則にならないが、反則になる場合はホイッスルをする。また、インタフェアになっているかいないかを判定をする。
 - ② ブロック側のタッチネットについては、副審もホイッスルする。
- (2) アンテナ付近の判定
ボールがアンテナに触れたのか、選手がアンテナに触れたのか、どちらのチームが反則になったのか正確に判定ができるようにする。
※ ボールの位置によって、アンテナのタッチネットの反則が起きることをあらかじめ予測をして位置取りを工夫する必要がある。
- (3) 許容空間外側のボール通過の判定
ボールを取り戻す場合のアンテナ付近の判定及びアンテナ付近を通過して相手コートに入る場合の判定では、位置取りを速くし正確に判定できるようにする。
- (4) バックプレーヤー及びリベロの判定
主審を補佐してタイムリーにホイッスルできるように、ラリー中、バックプレーヤーやリベロの動きを視野に入れ判定できる位置取りを速くする。昨今、バックアタックの攻撃が多様化され速くなってきているので、判定の方法を研究する。

※ ラリーが終了した後、ラリーに負けたチームのコートサイドで公式ハンドシグナルを追従する。移動しながら公式ハンドシグナルを示さない。

- ・ワンローテーションする間に攻撃パターンを頭に入れて（セッターがフォワードのときの攻撃パターン）、ブロッカーとアタックラインが視野に入る位置取りができるよう研鑽を積む。
- ・バックアタックがあるチームの場合は、あまり前後の動きを大きくしないように工夫する必要がある。

Ⅲ、競技中断の手続きについて

(1) 選手交代

クイックサブスティチューションを採用する場合は、手順及び取扱いを十分理解をし、スムーズに行えるようにする。

・選手交代を要求した時に、リベロとリプレースメントした選手（被交代選手）が、ベンチやウォームアップエリア等にいる場合は、遅延の罰則を適用する。

(2) タイムアウト、テクニカルタイムアウト

① タイムアウトとテクニカルタイムアウトの要求後、ワイピングがある場合、5mのフリーゾーンがあるときは、サイドラインから3mはベンチ近くまで下がるようコントロールする。5mのフリーゾーンが無い場合（ワイピングが無い場合も含む）は、ベンチ近くにいるようにコントロールする。

② タイムアウトとテクニカルタイムアウト中とその後：

・中断の許可後、ベンチに下がるときにベンチ近く（上記①参照）まで下がるようにコントロールし、モッパーがフロントゾーンを折り返すまで確認し、主審とアイコンタクトを取る。

・記録が正確に記載されているか、また、中断の要求時のリベロの位置を確認する。

・支柱を背にして両ベンチが見えるように立ち、中断終了前にコートに入らないようにコントロールする。（ユニフォームが出ている選手がいれば、入れるように注意する等。）

・タイムアウト後、コートに入ることが遅くなるような場合、ホイッスルとシグナルで促し、繰り返す場合は何回もホイッスルして促さずに、遅延の罰則を適用する。

③ ゲームの流れを読み、チームの要求に速やかに対応する。

ワンラリー毎にベンチコントロールを行い、ブザーがあるときは、ブザーに頼り過ぎないようにする。

(3) 最終セットのチェンジコート後、ラインアップシートで両チームのポジションを確認し、チェンジコート前の状態になっていることを、記録員と連携して確認する。タイムアウト、選手交代およびリベロのリプレースメントは、チェンジコート後すべてを確認した後、許可する。

【記録員】

規則25. 2 責務を十分理解し、自身の責務を遂行する。

(1) サービス順の確認、得点の確認をしながら、正確に記録をつける。疑わしいときは試合を止め、アシスタントスコアラー等に確認をしてミスのないようにする。（JAVISがある場合は、その情報も参考にする。）

(2) プロトコール中に、コート上のチームメンバーを記録用紙で確認をする。

(3) ブザーがある場合、セット間終了合図は、ブザーで合図する。

(4) クイックサブスティチューションを採用する場合は、タイミング良くブザーを鳴らし、落ちていて記録する。

・チームが複数の選手交代の要求をした場合は、最初に1度だけブザーを鳴らす。

・同時に両チームから選手交代の要求があった場合は、片方のチームの選手交代を完了させた後、再度ブザーを鳴らしてからもう一方のチームの選手交代を行う。

(5) 最終結果（RESULTS）の集計を素早く行う。（例：セット毎にメモ用紙に集計していく）

(6) 記載ミスをした場合は、二重線で消す。主審と副審が確認したときに誤りがあったときは、記録員が修正する。

【アシスタントスコアラー】

規則26.2の責務を十分理解し、自身の責務を遂行する。

記録員と声を掛け合って、交代選手の番号や得点を確認し合う。

- (1) リベロの交代を正確に記録し、反則があった場合、ブザーを鳴らす。
- (2) タイムアウト、テクニカルタイムアウト中は、リベロの位置を副審に通告する。リベロ2人を持つチームの場合、リベロがコートにいるとき、番号も副審に通告する。
- (3) スコアボードの得点が正しいか確認する。
- (4) テクニカルタイムアウトの開始と終了を通告する。
※ 1分をオーバーしないようにする。
- (5) 予備の公式記録用紙を準備し、必要があれば記録員に渡す。

【ラインジャッジ】

- (1) 担当するラインの判定を確実に行う。ボールコンタクトは、確実に見えた場合に限りフラッグシグナルを示す。
- (2) アンテナに関わる判定方法やボールを取り戻す場合の判定方法を確認し試合に臨む。
- (3) 選手がアンテナに触れた場合、フラッグを振りその選手を指す。

《 9人制 》

【主 審】

I、権限と責務

第27条第1項権限、第2項責務を十分理解し、試合全体をコントロールする。特に下記の項目については、毅然とした態度で臨む。

- (1) チームメンバーによる不法な行為（相手に向かって“ガッツポーズ”などで挑発・威嚇する行為など）に対して、第25条「不法な行為」に則って罰則を適用する。また、審判団（副審・線審等）に、チームから判定に対するクレームがあった場合は、その内容を確認し、適切に対応する。
- (2) 判定に対する質問は、ゲームキャプテンのみであるので、監督や他の競技者からの質問は受けつけない。

II、判定について

- (1) ネット際の判定
 - ① タッチネットの判定
タッチネットの判定は、副審に頼るのではなく、主審が見える範囲やネット上部の反則は判定しなければならない。
 - ② オーバーネットの判定
ブロッカーとボールの接点を確実に見て判定をする。（オーバーネットの反則が起きる接点に視点を置く。）特に主審側で、オーバーネットをしていない状態で反則をとる場合がある。ブロック後のフォローの手がオーバーネットしても反則ではない。
 - ③ ブロック行為なのか、そうでないのかを判定をする。（ブロック後優位なプレーにならないようにする）ブロック行為でない場合、同一競技者が続けてプレーすることはドリブルの反則になる。他の競技者がプレーした場合もハンドリングにバラツキがあるとドリブルの反則になる。
 - ④ ブロック後の接触回数を正確に判定する。（1人が連続して3回プレーするなど）
 - ⑤ ネットプレーの際にインターフェアの反則がないかを意識しながら判定する。相手プレーヤーの行為がネットプレーの妨げになるケースはインターフェアの反則である。
- (2) ハンドリング基準
 - ① 2本目・3本目のハンドリング基準を確立させる。特にオーバーパスではボールと手が接触する瞬間を良く見て判定する。
 - ② ネットプレーの判定で「ボールを掴んで（両手でボールを止めてネットに当てる。または、片

方の手でボールを投げる様なケース) ネットプレーをする」ときのホールディングや「ネットプレーの後のオーバーパス」などがホールディングやドリブルになることがあるので注視する。

- (3) 副審側の許容空間外側のボール通過の判定
ボールが副審後方の許容空間外側を完全に通過した場合は吹笛する。

【副 審】

I、権限と責務

第28条第1項権限、第2項責務を十分理解し、主審を補佐し、自身の責務を遂行する。

- (1) ベンチ（ウォームアップエリアを含む）にいるチームメンバーの不法な行為に対してコントロールし、主審に報告する。
- (2) 記録員の任務をコントロールする。
- (3) サービス順が間違っている場合の手続き、不当な要求、遅延や不法な行為の記録などが完全に行われているかを確認する。
- (4) 第2セット、第3セット開始時に、監督がメンバーの変更等申告のない場合は、必ず監督に確認を行う。
- (5) プロトコール中、コート上の競技参加者を構成メンバー表で確認をする。

II、判定について

- (1) ネット際の判定
 - ① タッチネットの反則は、第21条第3項を理解し、正確に判定をする。特にアタック後にネットの網目の部分に触れる反則が判定できるように目を残す。
 - ② 主審にワンタッチのハンド・シグナルを送るタイミングは、1本目のレシーブ後である。ハンドシグナルを送るときは、主審と目を合わせる。
- (2) アンテナ付近の判定
ボールがアンテナに触れたのか、選手がアンテナに触れたのか、どちらのチームが反則になったのか正確に判定ができるようにする。
- (3) 許容空間外側のボール通過の判定
 - ① アンテナ付近を通過する許容空間外側の判定では、位置取りを速くし正確に判定できるようにする。
 - ② ボールが主審後方の許容空間外側を完全に通過した場合は吹笛する。
- (4) 競技中断の手続き
 - ① 複数の競技者交代の手続きを1組ずつ正確に行う。(記録員との協働)
競技者交代の要求を確認した場合、直ちに吹笛しハンド・シグナルを示す。交代競技者が準備しているか確認をして、副審は、およそ監督が座るべきベンチの延長線とサイド・ラインの交点に立って競技者の交代をコントロールする(選手には声をかけて止まるように工夫をする)。そして、記録員の合図(片方の手を挙げる)を確認して競技者を交代させる。
交代競技者が準備していないときや、その交代が不法な場合は拒否をして、主審に遅延の手続きをするように合図する。
 - ② ゲームの流れを読み、チームの要求に速やかに対応する。
ワンラリー毎にベンチコントロールを行う。
 - ③ タイムアウト後、コートに入ることが遅くなるような場合、吹笛とシグナルで促し、繰り返す場合は何回も吹笛して促さずに、遅延の罰則を適用する。
- (5) ボールとの接触
主審と同様にボールとプレーヤーの接触回数をカウントし、明らかにオーバー・タイムスになった場合は、胸の前で主審に補助シグナルを送る。

※ ラリーが終了した後、ラリーに負けたチームのコートサイドで公式ハンドシグナルを追従する。
移動しながら公式ハンド・シグナルを示さない。

【記録員】

I、権限と責務

第29条第1項権限、第2項責務を十分理解し、自身の責務を遂行する。

- (1) サービス順および得点の確認を正確に行い、記録をつける。
- (2) プロトコール中、コート上のチーム構成員を記録用紙で確認をする。
- (3) 複数の競技者交代の手続きを1組ずつ正確に行う（副審との協働）
記録員は、交代が正規であるならば、必ず副審と目を合わせて片方の手を挙げる。競技者交代の記録を完了した後、副審に両方の手を挙げて、記録が完了したことを報告する。複数の競技者交代の場合は、上記の手続きを繰り返す。
- (4) 記載ミスをした場合は、二重線で消す。主審・副審が確認したときに誤りがあったときは、記録員が修正する。

【線審】

- (1) 担当するラインの判定を確実にを行う。ワンタッチは、確実に見えた場合に限りフラッグシグナルを示す。
- (2) アンテナに関わる判定方法を確認し試合に臨む。
- (3) 競技者がアンテナに触れた場合、フラッグを振り競技者を指す。